

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年8月11日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より9.1ポイント悪化の▲37.2となった。

2017年9月以来48ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲36.5、当月と比べ0.7ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2021年9月～ 2021年11月
業況	▲28.8	▲20.5	▲27.7	▲37.0	▲28.1	▲37.2	▲36.5
売上	▲26.4	▲4.1	▲10.8	▲22.0	▲11.0	▲19.2	▲21.5
採算	▲31.2	▲17.2	▲22.3	▲41.0	▲29.6	▲33.0	▲33.9
仕入単価	▲34.4	▲36.9	▲36.2	▲44.9	▲43.7	▲47.7	▲45.4
販売単価	▲6.4	0.8	0.0	6.3	9.3	1.5	▲1.6
従業員	12.0	18.0	19.2	16.5	18.0	23.9	23.8
資金繰り	▲20.0	▲10.7	▲15.4	▲13.4	▲11.7	▲16.3	▲17.8

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2021年9月～ 2021年11月
建設	▲23.4	▲17.3	▲28.5	▲32.3	▲20.0	▲27.6	▲27.6
製造	▲32.1	▲24.1	▲13.4	▲25.0	▲30.0	▲34.5	▲38.0
卸売	▲17.9	▲15.4	▲27.6	▲29.6	▲14.3	▲35.7	▲32.1
小売	▲50.0	▲20.0	▲35.0	▲61.1	▲50.0	▲63.2	▲42.1
サービス	▲30.5	▲26.1	▲39.1	▲47.9	▲36.4	▲33.3	▲45.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自社及び協力業者の職員・家族の罹患に伴う工事進捗の遅れや感染防止対策の効果的な方法・方策の策定。早期にワクチン接種が行える体制の構築が課題。（総合工事） ・一般戸建ての工事が昨年並みとなり、ウッドショックの影響はない。全体の業績は、一般戸建ての工事と定例的な工事でフル稼働の状態が年内続きそうである。人材については不足気味となっており、将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他） ・コロナウイルスの対応には限界があり不安である。工事は順調に進捗しているが、木材をはじめとして仕入れ価格の高騰が続いている。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の雨不足と7月下旬からの猛暑の影響で作物の収穫の遅れと減少している来月の下旬まで作物の収穫があるが、作物の減少＝売上の減少につながるので心配な点である。（食料品） ・新型コロナの影響によるウッドショックにより原材料が高止まりしているので売上はさほど変わらないが、採算性が悪くなっている。今後は北海道の最低賃金も改定されるので人件費の底上げも必要になり業績を圧迫することが予想される。（家具・木材） ・金属材料の仕入れに限らず塗装・溶剤等石油関連品の値上げも継続している。鋼材は半月ごとの価格上昇で見積もりリスクが非常に高い。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上増加はグループ会社合併によるもの。今冬のハウス倒壊や5～6月の低温等により、青果物の収量低下が見込まれる。（飲食料品） ・仕入単価の上昇。今現在は価格転嫁できているが今後においては危惧するところである。（機械鋼材） ・巣ごもり需要が定着した感が大きくライフスタイルは今後も少なからず、今のまま継続するのではないかと考える。（その他） ・石油製品の販売価格について、ガソリン・軽油は値上げとなっているが灯油は、値動きはあるものの小幅なものになると思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店での酒類の提供が禁止。感染者の急増により業務店、個人の売上減少が厳しい状況である。（食料品） ・毎月来店客が減少しており、売上が大変厳しい。新型コロナウイルスの影響が重く店舗運営の存続にもかかわってきている。（衣服見回品） ・仕入価格上昇分の価格転嫁が遅れ気味で採算性が低下している。コロナウイルスの感染再拡大による人流減に懸念。今後最低賃金引上げに対応できるよう採算性の改善が必要となる。（その他） ・来客数の減少。企業投資手控えによる売上減。社員退職による人手不足。新規募集進まず営業力低下。全国大手との競合。利益縮小。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で売上減少。非常に困っている。従業員多数採用資金繰りも大変。観光客大幅減。一日も早く回復することを祈る毎日である。（理美容・クリーニング） ・8月までは観光が活発で前年並みの予測であるが、札幌で感染者が増加し、全国的にも増加傾向であることから9月以降は動きが鈍ると考えられる。昨年は秋にGoToトラベルもあり好調だった為、今年は厳しい見通し。（ホテル・旅館） ・コロナウイルスの収束が見通せないため事業計画書が作成できない。パート時給の増額と社会保険料の納付が経営を圧迫している。固定費削減のため家賃補助金が必要である。（飲食） ・コロナ感染症と酷暑で人の移動量は減っているが、ワクチン接種の進展によっては今後の回復が期待できる。経済全体では回復基調とはいえ業種によって格差は大きい。観光関連業種が回復に回ってくれば全体の底上げとなり、切に期待する。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.0 ポイント改善、採算 DI4.3 ポイント悪化、仕入単価 DI11.9 ポイント悪化、販売単価 DI10.2 ポイント悪化、資金 DI3.5 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.6 ポイント悪化となった。業種別では、建築業横ばい、総合工事 10 ポイント、設備・その他 9 ポイント悪化となった。建築資材価格が高止まりの上、木材価格はさらに上昇している。公共事業は単品スライド条項で設計変更してもらわないと、かなり利益を圧迫するのでしっかり要望してほしいとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI10.1 ポイント悪化、採算 DI3.3 ポイント悪化、仕入単価 DI3.3 ポイント悪化、販売単価 DI3.4 ポイント悪化、資金 DI7.0 ポイント悪化、従業員 DI6.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、印刷・出版、家具・木材横ばい、金属窯業他 11 ポイント悪化となった。異常気象の影響により野菜価格の上昇及び品値の劣化により採算面不安。価格転嫁も検討中との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI14.2 ポイント悪化、採算 DI7.1 ポイント悪化、仕入単価 DI0.1 ポイント改善、販売単価 DI7.1 ポイント悪化、資金 DI7.2 ポイント悪化、従業員 DI7.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 21.4 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等横ばい、食料品 38 ポイント、機械鋼材 33 ポイント、その他 11 ポイント悪化となった。新型コロナウイルスの影響で地域・地方への販売活動が出来ないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI24.8 ポイント悪化、採算 DI13.2 ポイント悪化、仕入単価 DI4.1 ポイント悪化、販売単価 DI5.3 ポイント悪化、資金 DI3.8 ポイント悪化、従業員 DI6.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.2 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 50 ポイント、その他 5 ポイント悪化となった。不安定で高止まりの原油価格に対し、非常に状況が読みづらくなっている。第 5 波（コロナ）に対して改めて注意危機感を持ち、採算の取れる販売に徹したいとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 D1.2 ポイント改善、採算 DI10.9 ポイント改善、仕入単価 DI14.4 ポイント悪化、販売単価 DI12.9 ポイント悪化、資金 DI3.1 ポイント改善、従業員 DI15.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、ホテル・旅館 25 ポイント、その他 20 ポイント、運送 33 ポイント悪化、理美容・クリーニング横ばい、飲食 40 ポイント、整備業 55 ポイント改善となった。少し人出が戻り売上が上がってきたところに又まん延防止等重点措置になり、これでまた売上の減少になる。厳しいとの声も寄せられている。</p>